

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 1 日現在

機関番号：25301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520261

研究課題名（和文）カナダ・オーストラリア児童文学史の構築—比較研究の視点から—

研究課題名（英文）Constructing a History of Children's Literature in Canada and Australia
from the Perspective of a Comparative Study

研究代表者

桂 宥子（KATSURA YUKO）

岡山県立大学・情報工学部・教授

研究者番号：10254583

研究成果の概要（和文）：これまで筆者は、オーストラリア児童文学研究の第一人者である岐阜大学名誉教授牟田おりゑ氏とともに文学史的視点から加豪児童文学の研究を進めてきた。本研究では、特に作品数が増加し、ジャンルが複雑化する 1960 年代以降に焦点をあて、両国児童文学の比較研究を行った。その結果とこれまでに蓄積した研究成果とを合わせて、加豪の児童文学を黎明期から現代にいたるまでの通史としてまとめ、『カナダ・オーストラリア児童文学史』を公刊する準備が整った。

研究成果の概要（英文）：I have been studying Canadian and Australian children's literature together with Orié Muta, Emeritus Professor of Gifu University, who is the leading expert on Australian children's literature in Japan. In this project, I have researched, from the perspective of a comparative study, the children's books of Canada and Australia since the 1960s, when the number of works in many different genres started increasing in both countries. As a result, the history of the children's literature of both countries from its dawn to the present day has revealed itself and I am now prepared to compile a history of children's literature in Canada and Australia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：英語圏児童文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：(1)児童文学、(2)カナダ、(3)オーストラリア、(4)英語圏児童文学、(5)絵本

1. 研究開始当初の背景

英米児童文学といえば、これまで英米 2 ヶ国が中心であり、カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの児童文学は、その周辺文学にすぎないとみなされてきた。しかし、近年これらの国は優れた児童文学作品を輩出している。

研究代表者は「英米児童文学」ではなく「英

語圏児童文学」という新たな視座から、英語で書かれた児童文学全体の再評価が不可欠であると考え、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、さらにはインド、パキスタン、スリランカ、マレーシア、シンガポール、アフリカ、カリブ海域、西インド諸島などの児童文学の調査・研究を順次行いたいと考えた。

そこで、平成 14 年度から科学研究費の補助を受け、日本におけるオーストラリア児童文学研究の第一人者である、岐阜大学名誉教授牟田おりゑ氏とともに、カナダ・オーストラリア児童文学研究を始めた。その成果は、すでに『はじめて学ぶ英米児童文学史』（ミネルヴァ書房、2004）、『たのしく読める英米の絵本』（ミネルヴァ書房、2006）をはじめ図書 6 冊、論文 7 編等にまとめている。

一方、カナダ・オーストラリア児童文学の通史をまとめるには、作品数が増加し、ジャンルが複雑化する 1960 年代以降の研究を更に進める必要があった。そこで、平成 22 年度から始まった本研究では、1960 年代以降に出版された両国の児童文学作品に焦点をあて、現代のカナダ・オーストラリア児童文学を集中的に研究することにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、1960 年代以降に焦点をあて、現代のカナダ・オーストラリア児童文学を集中的に研究し、最終的には等しくイギリス植民地として出発し、共通の母語をもつ両国が、なぜ、また、どのようにしてそれぞれ独自の児童文学を発展させていったのか、さらに今後両者は英語圏児童文学にどのような貢献をなすのかを解明することにある。

具体的には、1960 年から 2010 年にかけて出版されたカナダ・オーストラリア児童文学を収集し、時代思潮及びジャンル別に研究を行い、両国児童文学の黄金時代の特徴を分析する。その結果とこれまでに蓄積した研究成果とを合わせて、両国の児童文学を黎明期から現代にいたるまでの通史としてまとめ、『カナダ・オーストラリア児童文学史』の公開を目指す。

3. 研究の方法

(1) 現代カナダ・オーストラリア児童文学データベースの作成：

カナダ児童文学書評誌 *CCL* や *Saxby* の *A History of Australian Children's Literature* に取り上げられた書誌情報と評価をデータベース化する。

(2) 国内調査：

カナダ大使館図書館、追手門大学オーストラリア・ライブラリーなどを利用して、両国児童文学作品の調査・研究及び資料収集を行なう。国内のカナダ・オーストラリア児童文学研究者と研究成果と情報を交換する。

(3) 海外調査：

カナダ、オーストラリア、英米の大学・公共図書館等を訪問し、現代カナダ・オーストラリア児童文学の情報及び資料を収集する。海外の研究者や児童文学作家と面会し、イン

タビューする。

(4) 資料収集：

以上の調査にもとづいて、随時必要な作品を購入する。

(5) 連携研究者との共同研究：

オーストラリア児童文学の専門家、牟田おりゑ教授とカナダ・オーストラリア児童文学の比較研究を行う。

(6) 研究成果を学術論文にまとめ、学術雑誌に公表する。

4. 研究成果

(1) 現代カナダ・オーストラリア児童文学データベースの作成：

① カナダ・オーストラリアの 1960 年以降を中心に、カナダ児童文学書評誌 *CCL* (-2005) 及び *Jeunesse: Young People, Texts, Cultures*(2009-)、*Picturing Canada* (2010)、*A History of Australian Children's Literature* (1969)等に取り上げられた作品の書誌情報と評価をデータベース化した。本テキスト・データベースは、今後カナダ・オーストラリア児童文学に関する新しい研究の展開に寄与するものである。

② テキスト・データベースを使った分析

上記のテキスト・データベースを使って、1960 年以降のカナダ・オーストラリア児童文学の年表を作成した。その成果は、『はじめて学ぶ英米絵本史』（ミネルヴァ書房、2011）の巻末年表、「21 世紀初頭のカナダ児童文学」（『岡山県立大学語学センター研究紀要』、第 10 号、2012）に Appendix として添付した年表として発表した。この年表等をもとに、現代カナダ・オーストラリア児童文学作品及びその邦訳をできる限り収集した。一方、リアリズム、ファンタジー、ヤング・アダルト、絵本のジャンルに分けて、作品分析を行った。

(2) 国内調査：

カナダ大使館 E・H・ノーマン図書館、追手門大学オーストラリア・ライブラリー、国際子ども図書館、大阪国際児童文学館などを利用して、調査・研究及び資料の収集を行った。

(3) 海外調査：

平成 22 年度に *UCLA* パークレー校の大学図書館及びパークレー公共図書館を訪問し、北アメリカの現代児童文学に関する情報及び資料を収集した。*Moe's*、*Pegasus Books* 等の書店において、カナダ・オーストラリア児童文学作品を含む現代の英語圏児童文学作品の選書を行った。平成 23 年からは本務校で管理職となったため、海外に出る時間が

取れなかったが、一方、海外の作家や研究者による講演会等に積極的に参加した。現代カナダを代表する作家デボラ・エリス及び現代オーストラリアを代表する絵本画家ショーン・タンの講演を聴き、現代の両国児童文学に関する知見を深めた。カナダの英文学者で文明批評家でもあるマーシャル・マクルーハンに関する講演会「グローバル・ヴィレッジを具象化して」（講師：ブリティッシュ・コロンビア大学リチャード・キャベル教授）に参加し、現代カナダ文学思潮の理解を深めた。現代カナダを代表するイラストレーター・アニメーション作家であるフレデリック・バックの特別展や世界八カ国の作品を集めた **World Book Design 2011-12** 等を視察し、カナダやオーストラリアの優れた児童書や絵本に関する知見を広めた。

(4) 資料収集：

現代カナダ・オーストラリアの児童文学及び絵本に関し、児童文学賞受賞作品を中心に原書及びその邦訳を収集した。

(5) 連携研究者との共同研究：

オーストラリア児童文学の専門家牟田おろゑ教授とカナダ・オーストラリア児童文学の比較研究を行った。

(6) 研究成果を学術論文にまとめ、学術雑誌に公表した。

「5. 主な発表論文等」に記した通り。概要は以下である。

【1960年以降のカナダ・オーストラリア児童文学の比較】

カナダ建国期には、シートン (E.T. Seton, 1860-1946)、ロバーツ (C.G.D. Roberts, 1860-1943)、モンゴメリ (Lucy Maud Montgomery, 1874-1942) といった作家が国際的に有名であった。しかし、その後のカナダでは、英米で出版された優れた児童文学作品を容易に享受できるためか、自国から優れた児童文学作家が生まれるはずがないという風潮が強まっていった。1960年代に入り、67年にカナダは建国100周年を迎え、ナショナリズムが高揚した。児童文学界では、ファーストネイションズの民話が脚光を浴び、それを基にした絵本や民話集が盛んに出版されるようになった。

一方、オーストラリアでは、1960年代から本格的な児童文学が書かれるようになる。火事、洪水など極限状況下の子どもたちを描くサウスオール (I. Southall, 1921-2008)、土着の精も取り込んだファンタジー作家のライトソン (P. Wrightson, 1921-2010)、自然保護に関心を寄せたチョンシー (N. Chauncy,

1900-70) 等が傑作を残した。1960年代中頃から白豪主義が解体し始め、それと呼応するようにプリンスミード (H.F. Brinsmead, 1922-2003) の『青サギ牧場』 (*Pastures of the Blue Crane*, 1964) のような作品が書かれた。

1970年頃から、カナダ児童文学の育成を支援する様々な活動が起こる。カナダ政府は、公共図書館にカナダの児童文学作品を購入する特別予算を確保した。この時期に、カナダの絵本賞「アメリカ・フランシス・ハーワード・ギボン賞」の創設 (1971年)、カナダ児童文学の専門季刊誌『CCL』 (*Canadian Children's Literature*) の創刊 (1974年)、カナダ国会図書館に児童文学司書の配置 (1975年)、カナダ児童書の発展と情報提供を目的とした「チルドレンズ・ブック・センター」の活動開始 (1976年) などが起こった。1971年にカナダは「多文化主義政策」 (multiculturalism) を導入し、1988年には、カナダ多文化主義法 (*Canadian Multiculturalism Act*) を制定した。多文化性や移民をテーマにした『チンチャンとドラゴンダンス』 (*Chin Chang and the Dragon's Dance*, 1984) や『ジョセファー』 (*Josepha*, 1994) のような児童文学作品や絵本が出版されるようになった。

オーストラリアもカナダに倣って、多文化主義を唱えるようになり、かつての白豪主義と決別することになる。「マルチカルチュラルリズム」は現代オーストラリア児童文学において通底する大きなテーマである。

2008年のアストリッド・リンドグレン記念文学賞にオーストラリアの作家が2名候補にあがった。受賞者はハーネット (S. Harnett, 1968-) であったが、残る一人マーズデン (J. Marsden, 1950-) は侵入者であるウサギが大陸を植民地化する『ウサギたち』 (*The Rabbits*, 1988) でオーストラリア児童文学絵本賞を受賞した。その挿絵を担当したタン (S. Tan, 1974-) は中国系移民2世の自らのルーツを移民の記憶として『アライバル』 (*The Arrival*, 2006) に描いた。

近年、移民をテーマにした作品に変化がみられる。多文化主義の歪みともいえる、マイノリティの若者の声を反映した作品が書かれるようになった。カナダの『GIRL[ガール]』 (*Skim*, 2008) には、ぽっちゃりしていて愛称は「スキム」 (低脂肪) という日系3世の少女が両親の別居、恋愛、失恋、友人の自殺、人種問題等を抱えながらアジア系高校生として成長する青春物語が描かれている。

オーストラリアの『アリブランディ』 (*Looking for Alibrandi*, 1992) ではイタリア系少女が体験する文化摩擦や人間関係を通して、多文化主義を標榜する同国の内実が浮き彫りにされている。

カナダが1970年代から行ってきた自国児

童文学育成プログラムが功を奏し、21世紀初頭のカナダ児童文学で注目すべきは、本格的なファンタジー時代の開幕である。オッペル (K. Oppel, 1967-) は、『シルバーウィング—銀翼のコウモリ』(Silverwing, 1997)において写実的動物物語というカナダ児童文学の伝統をファンタジーに生かし、成功をおさめた。

一方、サバイバルはカナダ・オーストラリア児童文学に共通する伝統的なテーマである。3.11以後は、核からのサバイバルというテーマがより現実味を増したと言えよう。オーストラリアのカーモディー (I. Carmody, 1958-) による核兵器撲滅と闘う少女を描いたシリーズ「オーバーニューティン・クロニクル」(Obernewtyn Chronicles, 1987-)の最終巻は、福島原発事故を意識して、アジア人を登場させるとのことである。

以上の結果とこれまでに蓄積した研究成果とを合わせて、加豪の児童文学を黎明期から現代にいたるまでの通史としてまとめ、『カナダ・オーストラリア児童文学史』を公開する準備が整った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 桂 宥子、英米のクリスマス絵本、岡山県立大学語学センター研究紀要、第9号、1-12、2011、査読有
- ② 桂 宥子、英米児童文学から英語圏児童文学へ、日本イギリス児童文学会会報、2011年秋季号、1-3、2011、査読無
- ③ 桂 宥子、21世紀初頭のカナダ児童文学、岡山県立大学語学センター研究紀要、第10号、1-10、2012、査読有
- ④ 牟田 おりゑ、核の時代と児童文学、日本イギリス児童文学会会報、2012年春季号、52、査読無

[学会発表] (計1件)

- ① 牟田 おりゑ、英米圏における児童文学の現状—オーストラリア、日本イギリス児童文学会、2011. 5

[図書] (計6件)

- ① 桂 宥子編著、ミネルヴァ書房、英米絵本史、2011
イギリス時代思潮、24-25
イギリス絵本概説、25-29
カナダ時代思潮、95
カナダ絵本概説、96-97
印刷技術の発展と絵本—19世紀まで、53-54

印刷技術の発展と絵本—20

世紀以降、108-109

ウォルター・クレイン、32-33

ケイト・グリーンハウエイ、34-35

レズリー・ブルック、64-65

チャールズ・キーピング、130-131

エズラ・ジャック・キーツ、150-151

カナダ時代思潮、156

カナダ絵本概説、157-158

エリザベス・クリーヴァー、161-162

カナダ時代思潮、226

カナダ絵本概説、227-228

フラベ・アスカ、233-234

英語圏絵本年表、261-279

- ② 牟田 おりゑ、ミネルヴァ書房、英米絵本史、2011

オーストラリア・ニュージーランド時代思潮、101

オーストラリア・ニュージーランド絵本概説、101

メイ・ギブス、104-105

ノーマン・リンゼー、106-107

オーストラリア・ニュージーランド時代思潮、163

オーストラリア・ニュージーランド絵本概説、164-165

エリザベス・デューラック、166-167

パラ・マッチット、168-169

オーストラリア・ニュージーランド時代思潮、237

オーストラリア・ニュージーランド絵本概説、238-239

デズモンド・ディグビー、240-241

ディック・ラウジー、242-243

ロン・ブルックス、245-246

ガビン・ビショップ、247-249

- ③ 桂 宥子、他、ミネルヴァ書房、英語圏諸国の児童文学 I、2011

絵本、7-12

- ④ 桂 宥子、他、研究社、英語年鑑 2011年版、2011

「回顧と展望 児童文学の研究」、36-40

- ⑤ 桂 宥子、他、研究社、英語年鑑 2012年版、2012

「回顧と展望 児童文学の研究」、35-39

- ⑥ 桂 宥子、他、研究社、英語年鑑 2013年版、2013

「回顧と展望 児童文学の研究」、37-41

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桂 宥子 (KATSURA YUKO)

岡山県立大学・情報工学部・教授

研究者番号：10254583

(2)連携研究者

牟田 おりゑ (MUTA ORIE)

岐阜大学・名誉教授

研究者番号：70313913